

## オンラインレッスンの可能性

声楽家 藤牧 正充

コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出され、多くのイベントが中止になり、感染拡大を防止するために外出の自粛が呼び掛けられています。三密を避けるため、様々な工夫がなされるなか、音楽に関してもオンラインを使っての取り組みが始まっています。

例えば、音大生や受験生などが試験などを控えているのにコロナウイルスの感染リスクを考慮するとレッスンが受けられないという状態は精神的な面でも大きな負担になってしまおうと考えられます。私もその要望に答えるべくオンラインレッスンを早いうちから取り入れて現在もレッスンを続けています。

実際に外出制限が行われているイタリアでは音楽院の美技レッスンもスカイプを使ったオンラインで行う取り組みが行われているという報告があります。

言うまでもありませんが、オンラインのレッスンが生への対面のレッスンに敵うはずはないのですが、現状のように外出がままならないような場合、あるいは遠方からどうしてもレッスンを受けたい場合などにはオンラインというツールを活用し、自宅でレッスンを受けるとするのはひとつの有効な手段と言えます。

オンラインのメリットは何らかの理由で外出できない場合でも、自宅にいながら遠方のレッスンでも受けられる点が挙げられますが、逆にカバーしなければいけないデメリットは、やはりディレイ(遅延)の問題。残念ながらどのアプリを使っても、この問題は解消されないため、画面のこちらでピアノを弾きながら画面の向こうで合わせて歌っていただくことはできません。また、音質的な面でも機器の影響を受けやすいという欠点もあり、音質を整えるにはそれなりの機材を揃える必要が出てきてしまいます。

しかし、一定の期間、対面レッスンを受けられるようになるまでの代替手段としてオンラインというツールを活用するのであれば、通信環境とスマホ、あるいはタブレットとアプリとマイク付きイヤホンがあればなんとかなります。マイクがなくてもスマホの内蔵マイクを使えばある程度カバーできます。もちろん、機材が揃えばそれだけ良い環境でオンラインレッスンが受けられますが、今現在マイクやヘッドホン、パソコンも品薄と言われる現状ではある程度身の回りのものを活用して環境を整えていくこともひとつの手段だと私は考えています。

一昔前、とある演歌歌手が遠方の先生のレッスンを受けるために携帯電話を使ってレッスンを受ける様子がテレビで放映されていました。今のようにスマホではなくいわゆるガラケーで、もちろん音声だけの

やり取り。何とか音声から何かを学びとろうとする歌手と、なんとか伝えようとする先生が奮闘している様子が映し出されていたのを覚えています。

現在は動画のやり取りができます。多少はカクカクいたり、音質云々が問題になったりもしますが、音声だけだったのが動画になったことにより、レッスンするにあたりお互いに得られる情報は非常に多くなりました。多くの音楽家や指導者がオンラインの可能性を探りながら、音楽を伝えようとしています。

これからそう遠くない未来に次世代通信が導入されれば、ディレイの問題も音質の問題も改善されることでしょう。そうすれば快適なオンラインレッスンを自宅にいながら受けられることになっていくのだろうと想像しています。

さて、ここまでオンラインの可能性を探ってきましたが、最後に私が結論として言いたいことですが、いかにオンラインが発達しても、つまるところ、生の演奏生のレッスンに勝るものはないということです。オンラインがいかに生に近い形でお茶の間に提供されてもかつて著名な講師陣の講義が全国で受けられる「サテライトシステム」が導入された有名塾でも生の対面の講義がなくならなかったように、音楽におけるその時その場所でのまさに一期一会の体験がオンラインの充実によって淘汰されてしまうことはないと思っています。いつでも手元で体験できるという利便との共存、あるいはむしろ「やっぱり生のやりとりはいいね 生演奏は違うね」ということを再認識するきっかけとなればと思っています。オンラインの可能性、リアルタイムな動画のやり取りは緊急事態におけるひとつの代替手段にとどまらず、音楽というものが本来どうあるべきか、我々に示すもっとも客観的な手段の一つになるのではないかと私は考える次第です。

コロナウイルスが収束したら是非、生の舞台に足を運んでください。そこには歴史のなかでどんな困難を経験しても消えることのなかった「生の芸術」が今そこにあるということを感じられると私は思います。



## 新型コロナウイルス感染症の現況

(厚労省4月19日版)

※国内での感染者10,219例

内訳：患者6,353例、無症状病原体保有者685例、陽性確定例(症状有無確認中)3,323例、死亡者は161名。  
また、国内での退院者は91名増加し、1,159名となった。